

くるる

野津原(のつはる)方言集
続編18 / 5ページ

道下ん桐ん花がポッカリ咲いちそん福よかな香りが旅する人を心和ませちくるる。

(道下の桐の花がポッカリ咲いてそのふくよかな香りが旅する人を心和ませてくれる。)

コメント:「くるる」は「くれる」から変わったところがないと思う。だから使おうと思えば使える。

別府大学 文学部 国際言語・文化学科
太田 月菜

チョコレ

野津原(のつはる)方言集
後編 / 271ページ

チョコレ ください

取り上げたきっかけ

現代語と昔語の考え方がぶつかっています。

コメント

最初にこの「チョコレ」を見た時、チョコレートの略語だと思いました。「ください」の命令形は、お願いのメッセージがあります。

別府大学 文学部 国際言語・文化学科
須竹 崧

七瀬川(ななせがわ)



2021.12.19撮影

野津原方言と文化の継承を考える。

日本の一つの文化として漫画がありますが、野津原方言集の内容をコミカライズ(漫画化)してみてもどうでしょうか。

絵が付くことでより方言の用途が分かりやすく親しみやすくなると思います。



別府大学 文学部 国際言語・文化学科
2年 古谷
2年 宮崎
2年 磯口
2年 廣瀬

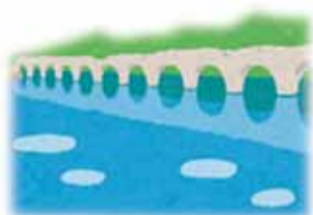
ホイホイホイ

野津原(のつはる)方言集
続編13 / 4ページ



七瀬のせせらぎサラサラサラ ホイホイホイ

(七瀬のせせらぎがサラサラと流れ、進んでいる)



コメント：ほいほいと聞くと、現代では「ほいっと投げる」というような使いかたをするのではじめは擬音的な意味なのかな、と想像した。「進め」という意味は様々な応用が利くと感じた。

別府大学 文学部 国際言語・文化学科
2年 岡本 耕汰

ホイホイ

野津原(のつはる)方言集
続編17 / 4ページ



七瀬のせせらぎ サラサラサラサラ ホイホイホイ

(七瀬の川を流れる水の音がサラサラと淀みなく軽やかに流れ進んでいる。)

コメント:

「ホイホイついていく」という表現があるように、現在は軽やかに物事を引き受けたり行ったりするさまを表す。方言として使われるときは「進め。行け。」などと似たような行動を促す意味で用いられている。

別府大学 文学部 国際言語・文化学科
2年 友松希帆

サラサラ

野津原(のつはる)方言集
後編 / 238ページに載っている

ハア 七瀬のせせらぎ
サラサラサラサラ ホイホイホイ

取り上げたきっかけ

よく使う言葉だったから。

コメント

七瀬のせせらぎ。サラサラサラサラ

別府大学 文学部 国際言語・文化学科
2年 佐藤冠太

野津原方言と文化の継承を考える。

・リズムがよく子供が馴染みやすいので絵本を作ってみたり、野津原方言話者の方との交流会などで口ずさむ機会を設ける。

疑問

・「ホイホイ」を『牛を進ませる「ホイホイ」という声がある』と訳すると聞いたのですが、「サラサラ」とは別に考えたほうがいいのですか？



別府大学 文学部 国際言語・文化学科
2年 岡本耕汰
2年 佐藤冠太
2年 友松希帆

シャンシャン

野津原(のつはる)方言集
続編15 / 58ページ



外ん雨がシャンシャン降りてーち トタン屋根う叩きよる。

(外の雨がシャンシャン降って トタン屋根を叩いている。)

コメント:
シャンシャンといえば「鈴の鳴る音」が思い出されるが、ここでは「雨が降る音」を表わしている。イラストのような様子を思い浮かべると覚えやすいかも。

別府大学 文学部 国際言語・文化学科
朝来野果萌

グワラグワラ

野津原(のつはる)方言集
続編15 / 53ページ



グワラグワラタ立ん雷が鳴りてーた。

ガラガラと音を立て (タ立の) 雷が鳴った。

コメント:
字面と音だけ「グラグラ」と揺れる感じにも思えるが、「がらがら」と音を立てるという意味である。雷が鳴り音が響いているときの音。

別府大学 文学部 国際言語・文化学科
北脇優弥

オロオロ

野津原(のつはる)方言集
後編 / 100 ページ



意地からでも仕事に行かにゃ熱もあるがオロオロするむこじようも 何も口を挟んでくれない

(意地でも仕事に行かないといけないのに、熱もあるしオロオロする婿さんも、姑や舅に口を挟んでくれない)

コメント:オロオロというのは似た言葉で「おどおど」とあるので発音も似ていて覚えやすい。

別府大学 文学部 国際言語文化学科
2年 高橋幸汰

野津原方言と文化の継承を考える。

方言集の中には様々な場面で使われる方言が載っているのですがこのようにたくさんある方言を忘れてしまうこととかはあるのですか？

方言集に載っている言葉を実際の会話ではどのくらい使いますか？

会話の中で方言が使われることが少なくなっていることや世代によって方言を使う量が違うことなど感じたりしますか？

野津原方言を残していくためには様々な年代の人に方言を日常的に使ってもらうことが必要だと思います。

若い人でも手に取りやすいようなもので日常的によく使う方言や様々な場所で使いやすい方言が載っている単語帳のようなものやアプリなどがあるとそれが可能なのではないかなと考えました。



別府大学 文学部 国際言語・文化学科
2年 朝来野
2年 北脇
2年 高橋